

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課

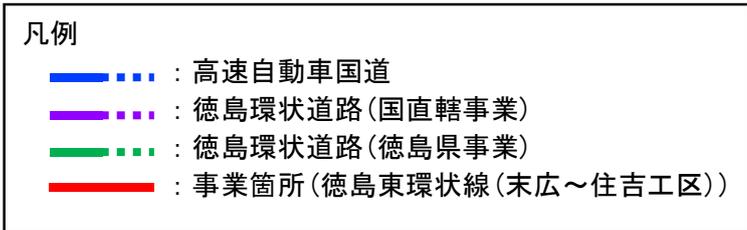
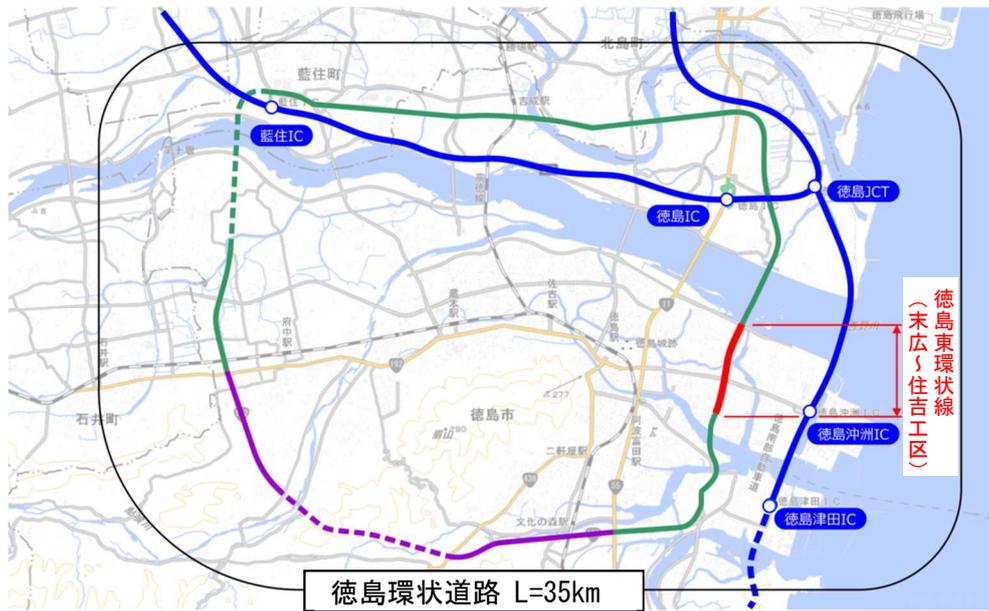
担当課長名：服部 卓也

事業名	地域高規格道路 徳島環状道路 都市計画道路 徳島東環状線 (末広～住吉工区)	事業区分	街路	事業主体	徳島県
起終点	自：徳島県徳島市末広2丁目 至：徳島県徳島市住吉6丁目	延長	1.8km		
事業概要					
当路線は、徳島環状道路の東側に位置し、徳島東環状線及び国道192号徳島南環状道路で形成される地域高規格道路であり、四国横断道と一体となり、地域の連携強化を図るとともに、徳島市内の慢性的な渋滞を解消し、円滑な交通を創出、地域振興、防災対策に寄与する重要な社会基盤である。本事業は、阿波しらさぎ大橋から末広大橋までの間について、高架構造により整備を行うものである。					
平成7年度事業化	平成6年度都市計画決定 (平成14年度変更)	平成8年度用地着手	平成8年度工事着手		
全体事業費	570億円	事業進捗率	約85%	供用済延長	(側道)1.8km, (高架)0.9km
計画交通量	41,300台/日				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 2.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 54/935億円 事業費：53/933億円 維持管理費：0.3/1.9億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 145/1356億円 走行時間短縮便益：124/1104億円 走行経費減少便益：17/201億円 交通事故減少便益：4.9/50億円	基準年	令和4年
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=1.3～1.6 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.4～3.0 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.4～1.5 (事業費±10%) 事業費：B/C=2.5～3.0 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4～1.5 (事業期間±1年) 事業期間：B/C=2.6～2.8 (事業期間±1年)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保：国道11号等の徳島市及び周辺地域の渋滞緩和 国土、地域ネットワークの構築：国土交通大臣に指定された重要物流道路の整備 災害への備え：徳島県地域防災計画で指定された第2次緊急輸送道路の整備 安全で安心できる暮らしの確保：自転車、歩行者の安全性の向上 					
関係する地方公共団体等の意見					
徳島環状道路建設促進期成同盟会や徳島市より整備促進の要望がある。					
事業評価監視委員会の意見					
継続することが適切である。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に徳島南部自動車道の徳島津田IC～徳島沖洲IC間が開通 令和3年度に徳島南部自動車道の徳島沖洲IC～徳島JCT間が開通 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率100%、事業進捗率約85% <ul style="list-style-type: none"> 平成15年7月(都)元町沖洲線から(都)東吉野町北沖洲線まで1.1kmを側道部暫定2車線供用 平成24年4月阿波しらさぎ大橋供用 平成27年3月安宅交差点南向き下りランプ供用 ・平成31年3月同区間北向き上りランプ供用 橋梁下部工は、全41基中36基が完成、今後、末広大橋との連結工事等を進める。 					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
事業効果の早期発現のため、段階的な供用を図り、早期完成に努めている。					
施設の構造や工法の変更等					
現道交通への影響を抑えるため、交差点部の上部工を一括架設するなど、施工方法の工夫により交通規制の短縮を図った。安宅交差点から末広大橋までの区間においても、引き続き工法や施工方法の検討を行い、現道交通への影響を抑えるとともにコスト縮減を図る。					
対応方針					
事業継続					

対応方針決定の理由

事業効果、進捗状況等を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。